生ものの部
全

ISSEIDO
東京 神田

くはしき事は年々のれいにも示例
あつまりて吟草の一冊となれは
なしくるゝまゝ
定雅序
文化よつのとし
卯の冬

松風にちよしくれを聞日永　霞湖

東風の日やゆふもましし炭俵　春女

さくらやり梅に匂ひしこゝろ山　綾女

第六

沖さら船にあたりたれ　春坡

ふるさとの探るもなつかしき　一貫

こんにゃくの蓑のもくさきさらさき　春峰

[illegible]　草阜社

美しき地のうるしられふ　蘆阜

ちくさやうの秋めわて筆とし　春耕

暮りよりの初乃雪を吹るふ　席丈

松風乃跡をつうきしられふ　霽雪

人まに和るぬれ乃一吹るも　め方

あさしき義れ自乃初乃雨　と子

[illegible]　蛇瞳

ちりしとろく秋の入むりふ　路因

歌仙　定雅

ちくれるひとうをみりて十二月

俗をとりしその椎の更　霞潮

枝のまちちの松をおもて　草阜

ちわゆきふれ風自をふり　響美

名月を拝衣也　了春　蘆皐

寒乾きする丸屋の萩　霽雪

ウ

秋のまよふた仏乃新さく　蛇瞳

内障眼寒い点れし　湖陸

個ゑし物を弱ふ弱ふ　春耕

大名寒し　末乃妹　席丈

紅梅の衣を焼きて　李暁

野茶を舁込るれいの寒　如方

梅雨しの川乃ほとをつしふ　路周

十抱へまれ枯し朴の木　雅

長刀を鬢者の玄関ふ鳥居　湖

臨押まむもの取れ月　阜

一丈の焼朝ゑと茶ゑ失て　美

寒のまよ廊下西北广　湖

ナヲ

雅
文
方
国
耕
美
阜

雅
潮
耕
国
阜
雅
美

ウ

紙雪とし連乃男をとうるゝ　文

管義うけて捨き門に　曉

白つゆ義の並乃いつゝも　周

ゝ鳴りをゝれ事みて　秋華

風もみしほわすれぶ　吳竹社　老雅
軍中の秋しまるときかるわ　警曉
人なきこと越もやんかれ　花仙
むかしたのもとこるかの雨ぶ　雅村
秋のこしのこふの言ふ　雅石
和門人きれてちそこ　吐龍
馬ときのうをきれ　遠泉

注大内紀社　蓬室
炉ものこしのこ　文雪
鶴飼の石門はまこかるう邦　柳江
松子美人寒るれ信中ものれ　慶標
梓ちせいこしかるる後ぶ　舍南
夕山のくもふれてかるる行　剛地
枯してかるれ中の柳う邦　慧別

夕時雨しうの郷浦乃山　行風

○

夜ハ行燈ハ[illegible]と[illegible]　同社　吐風

日の遠き山とし[illegible]の[illegible]ハ　著石

紫竹にハ言まきれと時雨行　西水

身ハ安[illegible]ふれて[illegible]の衣　唐洲

一[illegible]れ時雨[illegible]の[illegible]ハ　蝶我

月雨ふ[illegible]れ合て[illegible]ふ行　一席

義一[illegible]ふ[illegible]ハ　素朴

小時雨中[illegible]急ぐ義仙人　花雪

笠ハよ[illegible]ふ[illegible]と[illegible]　鳳尾

横雨[illegible]丈ケの[illegible]ハ　同城南　春山

[illegible]ハ[illegible]時雨行　、梅暁

[illegible]雨中[illegible]ふ[illegible]れ　、里徳

第二十四

[illegible]

白朗

嵐水

米史

曉子

文風

丹波

吳峰

鈍口

ゆるとゆふ小なれ　山東
ゆゝしきまでなる月夜ふ　嵐川
ものゝに対いてゆる哉　嘯月
ゝゝしゆるふゝ月夜ふ　雅白
ゆる金ゝ白ゝるまゝ　春雨
久ゝゝゆる時ふゝ前ふ　朝三
ものふゝ鳥もあ沢ゝれ　佳秋

朗ふ月ゝれまゝゆる事　亀卜
ゆる雨金ゝ久ゝの長雨　芳水

○

振合沢袖ゝゝ一統ゝ　巴大（伝見）
月ゝゝ隠ゝれゆるふ　賀瑞
雨ゝゝゝゝゆるの中ゝ奥　湖陸
れゝゝゝゝゝ村ゝれ　嘯塢

二柳　初雪
一止　小雪
二丑　冬至
沾文　冬月
霞塘　新月
佳章　庵月
其流　雨月

竹雨　庵中行者
我鳥　茅のちぼる
定角　和神
香猫　茅ぼて菴
磯子　ちぼれ
千柳　儒義の千
李曉　茅と柳

烏鵲のそしと隣さもしくれ　幾行

○

いけとふう降もなくに鳴るか　雪丸

夕くれと業ものう情くれるか　狐友

山よりとすりてそろう麓う邪　社楽

そしくと鳴れ中ふ日の定し　芦水

○

ムちそふいろく役乃しくれう邪　豊狗一洪

夕ぐれとしくれ寺中もる蔭　廿三 江州　烏頂

日ごろの雪強り細仕事　屋風

低徊しられしの岩つふ　槿馬

待ぬ中に出る比良横川　鶯山

月ぬすむ雪の橋の上　茂良

雪ぬすむ中に枝にくり　内家

しられまうの行ふ自ふう　六雲

日ぬ方へ寒乃ふ雪つふ　フカ州　狸友

降ぬのふ小雨しめしられ　ヨト　杜遊

ひくもられ雨橋ふ出ふ雪つふ　十二六　響夏

○

ふるしと雪月雪もふ雪つふ　菊宋居杜　如竹

歳しられ年ぬ雪ん千の奥　春我

降しにしられの松ひに木　千雪

霞乃春のしられる時うゝ春　雲松

ひやしと雪うすたのもるゝ　女

出れうれ戸佐の紅や初しれ、　其門

門下に為角乃こてタしうる　蘿蔔

ふうゝや松うすの為あうう　冠弘

あうしと角もなうふてもうもる　賞山

○

雪乃芳社　移石

市中ふ松乃寺ちう小春もる　路茎

笑しゝ雪ふうもうしれ　こう

屋根呂れ鶴の中タ月　蒲山

タ風ゝうちの吹ふふるる　宇光

ふるうゝうゝ雨春と成ふう　鼠流

久ゝ雪乃中ち初のしれふ　帯霧

萬山人

文信

その事共哉而白よ小倉ゟ　士部
今乃羽も叶ふ事ちとせのひと　蒼軌
度寛中門ゟ振人面乃鹿　年心
つゝふゝ人ゝ叶ふ芦倉ゟ　ちつる
姉川ゟひとと友薛く小浦ゟ　玉屑
人ゝふ淳も叶ちよりうれ　祐昌

誰うなるめもしられん隅田川　春蟻

このしふあいたちつゝ山　鳳羽

泥石に用なに臍乃岡寺　若菱

武門乃稽古ふくれうつし　宋也

ろるまの木のもれ洩を初日　紀隨

ちちふ流うせまうる裏乃泉　文頂

初雪やまさ岸の松もとゝ　月居

○

もちつゝやまとい初しくれ　定雅

冬の吟

鄙陽に紛るに秋陽の小雪　宋也

浦風をうる芝に枯るゝ　佐季謙

人の住うきりいとし山乃奥　六雲

陶淵明の詩を思ひ、雅好
桂をうゑ菊の叶を愛する
吹ちる春風乃手柄を、美粕
ゆるしに日和をうかゝ、南行
きりしたを書夜いとを、響義

○

ゆきのうしろあるかたの天竺門　草阜

十七

降るまの屑よりわかるの月　蘆阜
朝乃雨ふる多く晴る日ハ　春耕
ひらしと雪をふる月夜ハ　霄雪
水一重氷りてハ小叶うわ　如方
初雪をうるたに人乃哭う南　ヒみ
峰ちり行ふまの白ふの新　席文
降る雪を失なし風乃日われ　蛇瞳

十八

雪ほく月すりはれもそ明ル　路用

ほうゝ白ゝ一ゝ雪乃朝　震潮

月と雪ゝの中をあの立るル　定雅

みゝの梅咎ゝけふ開ル　仝

みわたゝる海きえられぬこゝろ

忘れもしゝ又しられぬ夕ゝふ　雪菴

ほ音ゝ降ゝれゆくしられル　馬肝

後序

ゝゝ菊事ト菊のあるゝ

集るもやかの菊間ゝ

酒と賜ふ酒父ゝ

四人又炉ゝ五ゝ若を義也

岡人乃ゝゝれもあ爲

ゝゝゝゝ枯尾花ゝ

かゝゝ豆のくきゝ

書林橘仙堂　京都室町一條下ル町
平野屋善兵衛梓